

Interview

住民の思いを形にするチームオレンジ

浜田市 健康医療対策課
高齢者福祉係

R3年度、浜田市で2つのチームオレンジが発足した。

1つ目は、地域の民生委員が中心となって立ち上がった「チームS・O・S」（周布地区・大麻地区・お助け・ステーション）。

周布地域の地域ケア会議で挙げた「地域の認知症の方が困っていることを手助けしたい」という意見を受けて、チームオレンジの勉強会を開催。

「出来ることから始めよう」ということで、市の認知症地域支援推進員がコーディネーターとなり、認知症疾患医療センターや法テラスなどの協力を得て、認知症の基礎的な学びや接し方の講義、意見交換、ステップアップ研修など、繰り返し学びを深めていった。

市がチームオレンジ設置の要綱を策定し、事業計画もチーム員と一緒に作成し、活動がスタート。広く本人の発信をキャッチできるよう、新聞販売店や地区の社会福祉協議会、小売店などとも連携することで、構成人数は少しずつ増えていき、現在約40名。

活動内容は、認知症の人や家族を地域で支えていくために、ちょっとした相談など、本人の困り事の発信に対して、随時傾聴・出前支援を行う（月平均15件）。チームオレンジの活動を通して、“一人でも安心してくらしが出来る地域”を目指す。



R3.9.25 山陰中央新報社 広告記事

～ 利用者の意向に添った雰囲気づくり ～



開催時の様子（化粧講座）

2つ目は、薬剤師（薬局）が中心となって立ち上がった「あすなるくらぶ」（下府地区）。株式会社エスマイルのあすなる薬局が運営主体。

こちらも地域ケア会議で、身体的アドバイスや定期的な通いの場が必要な事例が挙がり、参加していただいている薬剤師が、薬局としても何か地域医療や介護に貢献できないか検討され、チームオレンジの設置につながった。

活動内容は、薬局のスペースを活用し、週に1度程度（当面は2週に1度）、MCIから軽度認知症の方を含めた高齢者を対象に、薬剤師や管理栄養士、認知症化粧セラピスト等の有資格者が、時には化粧講座なども開催するなど、本人ミーティングを大切にしながら、利用者の意向に添った教室を開催する。本人の意向や、

困り事に寄り添った支援を目指す方針のもと、何気ない本人の言葉を聞き逃さず、雰囲気づくりにも心がける。参加者の多くは、元々かかりつけの薬局としてフォローされていた方の口コミから。

認知症疾患医療センターの協力で、事例を通じた接し方や連携の仕方について学んだことで、実際のチーム活動においても、認知症疾患医療センターのスタッフと連携できている。

今後も健康相談や栄養指導、薬の飲み方相談、フレイル予防、認知症予防などを通して、地域の健康増進につながる活動を目指す。

取材後記

地域ケア会議をきっかけとして、住民の思いに寄り添い、研修の企画やチームの会則、規約を制定するなど、市の担当者が大きく関与されている点がとても参考になります。

チームオレンジの設置に向けて、悩まれている市町村が多いと思いますが、このように地域から「私たちに認知症の人や家族に出来ることがないだろうか？」という思いがあった際に、その思いを上手く形にするために、学びを深め、一緒に意見交換を重ねていくことで、自然とチームオレンジの立ち上げに近づいていくのではないかと、取材を通して感じました。